



学校だより

山辺里小学校

学校HP <http://saber-e.murakami.ed.jp>

令和8年2月13日 第10号



心を育んでくれるところ



校長 小川 誠

「ふるさと」

育ったところ 必ずしも家庭ではない
 心を育ててられたところが 家庭である
 学んだところ 必ずしも母校ではない
 よき師よき友にめぐり会えたところが
 学校である
 生まれたところ 必ずしも故郷ではない
 心をとどめたところが 故郷である

「ふるさと」という詩があります。
 この詩は、どのような豪華な家に住んでいても、どんなに立派な校舎に学んでも、人の心に強く刻まれるのは、真に心を育んでくれたところであることを教えてくれる詩です。

この詩はまた、私たちに、「真に心を育んでくれたところはどこか」ということを問いかけている詩でもあります。

家庭・学校・地域が心をつなげて、時

には優しく、時には厳しく接し、見守っていくことで、子どもたちの心の中に《大事にされ、見守ってもらった》『家庭・学校・地域』が「ふるさと」として残っていくのではないのでしょうか。



毎年行われるふれあいウォークで、子どもたちと一緒に歩く。途中の様子を見守り、声を掛ける。運動会で、子どもたちの頑張りに、応援席で身を乗り出しながら声援を送る。運動会終了時には、会場の後片付けに汗を流してくれる。文化祭では、ステージでの子どもたちの発表に温かな拍手を送る。忙しい仕事の合間を縫って、会場の準備やパネルの片付けに力を貸す。各学年の体験活動にボランティアとして参加する。

そんな親の姿からも、子どもたちの心に深く「ふるさと」を刻み込む《何か》があるのではないのでしょうか。

親だけではありません。子どもたちが野菜を育てられるようにとグラウンドの畑を耕す。田植えで、今では使われていない木枠をもらい受け、子どもたちに田んぼに印を付ける特別な体験をさせる。田植えに参加して、子どもたちに声を掛ける。秋の稲刈りでは、天候に合わせて子どもたちが活動しやすいように事前に稲を刈る。塩引きづくりで、子どもたちに包丁の使い方や塩のすり込み方を教える。物語の楽しさを伝えようと、毎月、子どもたちに本を読み聞かせる。毎週、図書室の本を整理し、子どもたちが本にかかわれる環境を整える。

このような地域の皆様の姿からも、子どもたちは地域から見守られていることを肌で感じ、「ふるさと」である山辺里地区のすばらしさを心に刻んでいるのだと思います。

地域を愛し、地域を誇りに思う、心豊かな子どもが育つよう、よき「ふるさと」を提供する。そして、子どもたちが「ふるさとの誇り」となるようかかわることが、私たち大人の責務なのだと思います。



2月下旬、学校の応援団として、様々な場面で子どもたちとかわってくださった、学校運営協議会の皆様との最後の会議があります。1年間の感謝を申し上げるとともに、子どもたちのために、新年度も同じ皆様から、引き続き力を貸していただけるよう強く願っています。